

「消防団の力向上モデル事業」 事業紹介

事業名 消防の広域化を踏まえた消防団の体制確立事業

自治体名

神奈川県寒川町

消防団名

寒川町消防団

1 事業の目的・必要性

事業の目的・必要性は、①高齢化社会を考慮した実践的な消防訓練の実施、②デジタル世代である若年層が消防団に興味を抱くための消防団事務のデジタル化、③次世代の消防団を担う子どもたちが消防団を身近に感じてもらうために開催する防火教育型競技の3つである。

2 事業内容

【実践的な消防訓練】

消防団員の高齢化対策として軽量で取り扱いやすいガンタイプノズル及び50mmホースを導入し、消防操法のようにまっすぐホースを伸ばすのではなく、建物の周囲を50mmホースで取り回し、建物の裏側に回り込んで放水を行う、逃げ遅れた高齢者の避難誘導を行うといった火災を想定した実践的な消防訓練を行う。

【消防団事務のデジタル化】

消防団アプリを消防団員のスマートフォンにインストールしてもらい、電子上で車両運行記録や出勤報告の承認及び提出、さらには出勤指令まで行う。特に、茅ヶ崎市消防本部を介することなく、寒川町消防団長が寒川町消防団に指令を行う機能を、手段の一つとして得ることは消防団が中心となって活動する大規模災害時を見据えた場合、消防の広域化後の消防団に必要なものである。

【将来の消防団員となる子どもたちを対象とした防火教育型競技】

子どもたちが参加する防火教育型競技では、①子ども用防火衣を着装する（身の安全の確保）②「火事だー」と叫ぶ（周囲への注意喚起：通報）③訓練用水消火器で的を倒す（消火器の使い方の習得：消火）、④煙を吸わないように低い姿勢でゴールに向かう（避難）までの時間を計測する。楽しんでもらいながら火災対応について学び、消防団を身近に感じてもらう。

3 事業成果

【実践的な消防訓練】

常備消防の現場到着が遅れる災害を想定し、消防団アプリによる出勤指令から防火衣着装、指定したコースの車両運転及び先着隊として現場到着後の現場活動といった訓練内容を準備し説明を行ったところ、徐々に基礎的な訓練から進めていくことになり、今回はガンタイプノズルなどの新たな資機材の取扱訓練から開始する。その後の会議等で、次年度からは訓練内容を大幅に見直し、消防操法大会の代わりに、ガンタイプノズルなどを活用する実践的な活動を想定した消防技術訓練会を開催していくこととなる。

【消防団事務のデジタル化】

消防団員に対して行った消防団アプリの有効性についてのアンケート結果から77%であった。有効でないという回答には「取扱いに習熟していない」といった回答が多かったため、今後マニュアル等の周知等に力を注いでいく。また、分団長会議にタブレットを導入し、今まで紙媒体で行っていた会議を見直した。会議終了後には、消防団アプリで全分団員に資料配付も行うことで手軽に素早く全体への周知も図っている。

【将来の消防団員となる子どもたちを対象とした防火教育型競技】

周辺消防本部のイベントと日程が重なったこともあり集客が少なかったと感じているが、次年度に町が開催する大きなイベントに消防団も参加することとなったため、そのイベントで今回実施した防火教育型競争を取り入れ、引き続き、次世代を担う子どもたちに消防団を身近に感じてもらう予定である。

4 目標達成状況

指標	単位	当初目標	実績値	備考
ガンタイプノズル等活用継続希望者	割合	100%	97%	「割合」は消防団員に行ったアンケート結果から算出している。
消防団アプリ導入者	割合	100%	99%	
防火教育型競技参加者	人数	20人	16人	

5 その他参考情報

寒川町は、令和4年4月1日から消防団及び消防水利を除く消防業務を茅ヶ崎市に事務委託することで、消防の広域化を開始している。

実践的な消防訓練



消防団事務のデジタル化



防火教育型競技